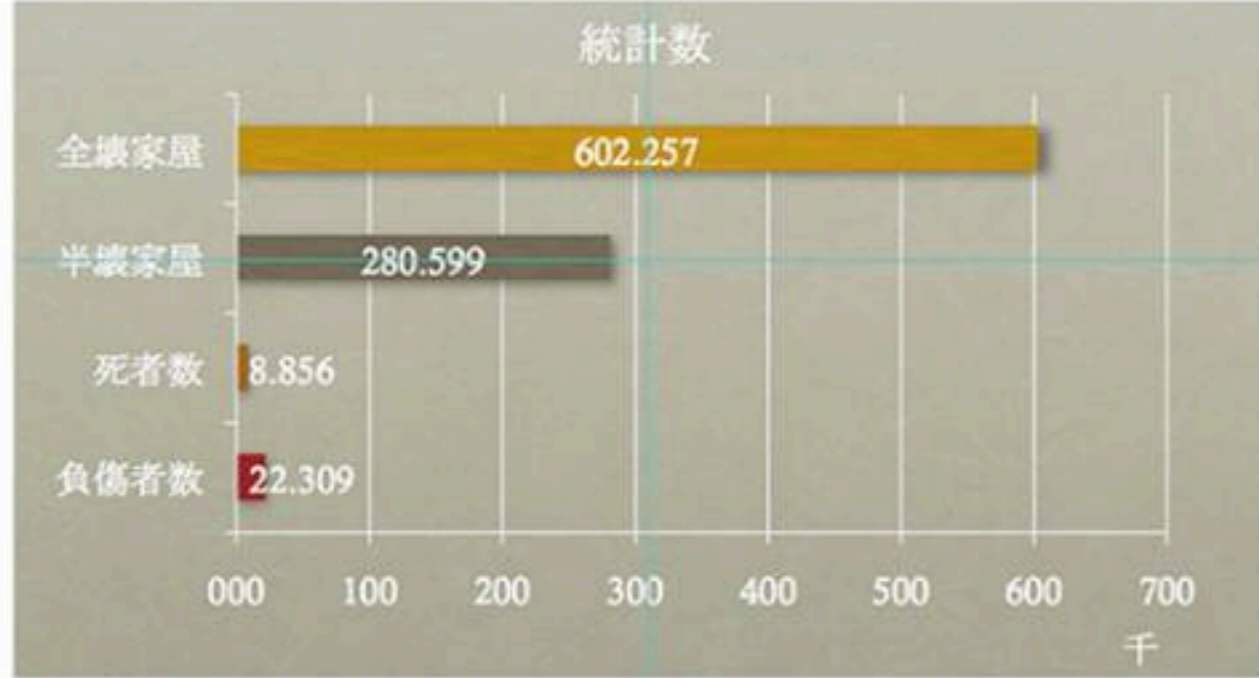


子どもたちの笑顔が消えないうちに、仮設ではない「家」を造るプロジェクトを



ネパールと日本は繋がっている

釈迦が生まれ、日本とは精神の深いところで繋がっているネパール。主力産業は農業と観光。農業で支えられているから食べ物はある。だから飢えてはいない。それは素晴らしい事だ！子どもたちはみな元気に笑っている。日本が置き去りにしてきた何かがネパールにはある。しかしテント暮らしが長く続けば、彼らから笑顔を奪う事になるだろう。6月に和氣が現地を見て来たその現状と次へのプランを解説する。同じ地震で苦しんだ日本だからこそ出来る支援が必ずある！



ネパール震災データ (2015年6月現在)

- ◆現地時間：2015年4月25日11時56分発生
- ◆震源地：ネパールのカトマンズ北西77km付近
- ◆マグニチュード：7.8

全壊家屋：602,257戸
半壊家屋：280,599戸
死者：8,856人
負傷者：22,309人

*ネパール人口の30%以上800万人以上が被災。カトマンズ盆地では古い建物の80%以上がダメージ。崩壊した村からの避難者が首都で難民化している。
*外国人による被災児童の誘拐/人身売買が多発している。



子どもたちの為にも、一刻も早い住宅供給が必要！

- ◆崩壊した山間の村民たちが都心で難民化している。
- ◆テント生活が長引く事による弊害が懸念される。
(健康/心身疲労/テントが雨季に耐えられる構造ではない/父親が家畜の世話の為に村に残るなど家族の分断が起きている)
- ◆狭くても家族で安心して住める住宅の供給が急務。
- ◆経済的困窮とスラム化/子どもたちが危ない。



ネパールの家は地震に弱い構造

左の写真をご覧頂けるだろうか。ネパールの地震で古い建物が崩壊した理由は、木枠に日干しレンガを土で接着しただけの「地震に弱い工法」で建てられていたからである。現地では崩れたレンガを拾い集めて積んでいる場面をよく見かける。しかし余震でまた崩れるのが現状だ。必要な家の条件は「地震に強く」「安く」「早く」作れる住宅である。しかもそれが市民の手で作れたら…



推奨すべきアースバック工法の家造り

そこでアースバック工法である。基礎素材は「土」土ならネパールに幾らでもある！アースバック工法とはチューブ状の素地に土を詰めてトグロを巻くように積んで行く工法。これならレンガのように崩れる事は無い。景観もネパールの景色とピタリ合う。簡単な防水加工を施せば半永久的に保つ。この工法を広める為にワークショップを行い、市民の手によるセルフビルドでの家造りを拡散すべく12月に再度ネパールへ向かうプランだ。その先には村ごとアースバックで再興し農業と観光を融合した「エコアースビレッジプロジェクト」が待っている！



12月のアースバックワークショップの概算見積もり

期間：2週間
和氣/中野さん渡航費：300,000円
中野さんワークショップ講師費：380,000円
工具費：300,000円
材料費 (EBチューブ含む)：250,000円
宿泊費/食費/雑費：150,000円
計：1,380,000円



和氣優Facebook

◆和氣優とネパール支援チーム

- ・ネパール支援のAOZORA PROJECT
<http://aozora-marche.com/?cat=19>
- ・YOU-TUBE動画
<https://www.youtube.com/watch?v=mhTvtut-gzRs>
- ・新宿Loftなどと共に旗揚げしているFacebookページ
<https://www.facebook.com/pages/Never-End-Peace-And-Love/106396473031362>

◆支援/義援金の振込先 (NPO法人Agri-Connections)

ゆうちょ口座
アグリコネクションズ
ゆうちょ銀行からの振込
<記号番号> 記号 10190 番号 7041481
ゆうちょ以外からの振込
<口座番号> 0一八(ゼロイチハチ)支店
口座番号 0704148